小谷小だより

第　10　号
令和７年
１月17日

E-mail:kodani-sho@city.higashihiroshima.hiroshima.jp

あけまして　おめでとうございます

後期後半が始まり、２週間が経ちました。この３か月は、学年のまとめと次の学年への準備の時期でもあります。とりわけ、６年生にとっては「卒業」そして「中学校」へ向けての大切な時間となります。一人一人の児童が未来に向かって、さらに進めていけるよう、教職員一同全力で頑張ります。

本年も学校教育へのご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

※毎年まちづくり協議会の皆様に門松を作っていただいております。子供たちが日本の伝統文化を学ぶ良い機会となっています。また、地域の方より干支の作品をいただきました。たくさんの方々に子供たちが見守っていただいていることに感謝します。

校内書初め大会　～一文字一文字、ていねいに、真剣に～

１月９日（木）に校内書初め大会がありました。子供たちは、一文字、一文字ていねいに力いっぱい書いていました。真剣な顔には、この一年間に向けての気持ちがとてもよく表れていました。冬休みにしっかり練習した成果が十分に発揮されていました。１年生と２年生は、硬筆、３年生以上は、毛筆で次のことばや文を書きました。

１年生は、　どうぶつえんでパンダを見た。おいしそうにささをたべていた。
２年生は、　はじめてたこ上げをしました。風をうけて空高く上がりました。
３年生は、　友だち　　４年生は、　明るい心
５年生は、　新しい風　　６年生は、　将来の夢

子供たちの真剣に取り組む姿は、大変立派でした。これからも、集中して物事を成し遂げようとする力を高めていってほしいと思います。

生き方を学ぶ　～後期後半スタートの会での話より～

後期後半が始まるにあたり、子供たちに次のような話をしました。

冬休み中にテレビを見ていて、この選手はやっぱりすごいなというのがよく伝わった番組がありました。カープの矢野選手の特別番組です。矢野選手は、昨年、野球の守備で特によかった人を表彰するゴールデン・グラブ賞を受賞しました。

矢野選手は、2020年のドラフト6位で入団し、カープの新入団選手発表会見の場で『ゴールデン・グラブ賞は必ず獲ります』と語っていました。入団当初から、三遊間の深いところからでもアウトにできる守備範囲の広さと肩の強さが光っていたそうです。

しかし、守備はすばらしいものの、打つ方で苦しんでいたのですが、打つ方で結果を出せるようになれば絶対にレギュラーで試合に出られると感じ、昨年の春のキャンプでは誰よりも早く球場に姿を現し、休日でも関係なく、たくさんバットを振り続けたのだそうです。そして「良いバッターに話を聞かないのは損」と積極的に先輩たちにも話を聞きに行ったそうです。

そして、昨年度の活躍はみなさんもご存知の通りで、137 試合に出場、打率は.260 で放ったヒットも 112 本と初の年間 100 安打を超え、4年前の入団会見の時から目標に掲げていた念願のゴールデン・グラブ賞を初めて受賞しました。

矢野選手から学べることは何か。自分の良さは何か、自分に足らないことは何か、自分自身のことを理解し、よさを生かして自分を磨く、足らないところを克服するため周りの助けも借りながら努力していく。そして、それらを成し遂げるために、あきらめず、とことんやっていく。25歳の矢野選手からたくさんのことを学ぶことができました。

これは、いつも言っている「自分を育てるのは自分　自分を動かすのも自分」とつながりますね。そして、「自分を律して自分に厳しくする」ということにつながっていますね。

誰かの生き方から学ぶということを感じ取ってもらえればと話しました。子供たちには「自分がどうありたいのか」、「どうしていけばよいのか」を自分なりに考え、自分の生きる道をしっかりと踏みしめてもらいたいと思っています。

校長　山田　　隆